

報道関係者各位

平成 23 年 7 月

新規透析患者数が 2 年連続で減少 原疾患である糖尿病性腎症も初の減少傾向へ 2017 年より透析患者数は減少の予想

日本慢性腎臓病対策協議会(事務局:東京都文京区、理事長:榎野博史、以下 J-CKDI)は、2010 年末の慢性透析患者数、2010 年の新規透析導入患者数とその主要な原疾患の推移について、7 月 1 日(金)に厚生労働省記者会に於いて以下の通り発表いたしましたのでご案内させていただきます。

2010 年に新たに透析治療を始めた患者数(透析導入患者数)は 3 万 7,532 人で前年より 34 名減少しております。透析導入患者数は増加傾向が続いておりましたが、2009 年に長期に渡る統計調査開始以来、初めて前年比で 614 人減少となっており、これで 2 年連続の減少となりました。(図 1)

この結果は、2010 年末現在の透析患者数は 29 万 7,126 人と未だに増加を続けているものの、急激な増加には歯止めがかかりつつあることを示唆しています。(図 2)

また、透析にいたる原因別では、1998 年より糖尿病性腎症が慢性糸球体腎炎を超えて第 1 位となり、その後も増加の一途をたどっておりましたが、2010 年は統計調査開始以来はじめて糖尿病性腎症による透析導入患者数は前年比マイナスとなり、その割合も 43.5%と 2009 年に比べ約 1%減少していることが分かりました(図 3)。

統計調査委員会の中井滋先生(藤田保健衛生大学)の「今後の慢性透析患者数の動向」についての調査報告によりますと、日本の透析患者数は、まだしばらく増加が続きますが、2017 年の 31 万 9,677 人を境に減少に転じ、その後も緩やかに減少傾向となると予想されます(図 4)。

また 2010 年にはじめて減少した糖尿病性腎症による新規透析導入患者数ですが、今後も減少傾向と予想されています(図 5)。慢性糸球体腎炎はすでに 1999 年前後をピークとして減少を続けておりますので、透析に至る原因の第 1 位、第 2 位の疾患については、その対策が奏功していることがうかがわれます。

一方で加齢や動脈硬化にともなう腎硬化症は増加傾向が続くと予想されており、2017 年頃には慢性糸球体腎炎を超えることが予想されます(図 5)。日本の高齢化に伴い、透析患者の高年齢化も進んでおり、透析導入を防ぐ新たな高齢者対策も望まれているのも事実です。

今回の透析患者数の減少については、厚生労働省や日本腎臓学会、日本透析医学会など、多くの学会・団体が透析患者数の抑制に向けて積極的な取り組みを実施した成果であると考えております。

(次頁以降の参考資料をご参照)

～本リリースのお問合せ先～

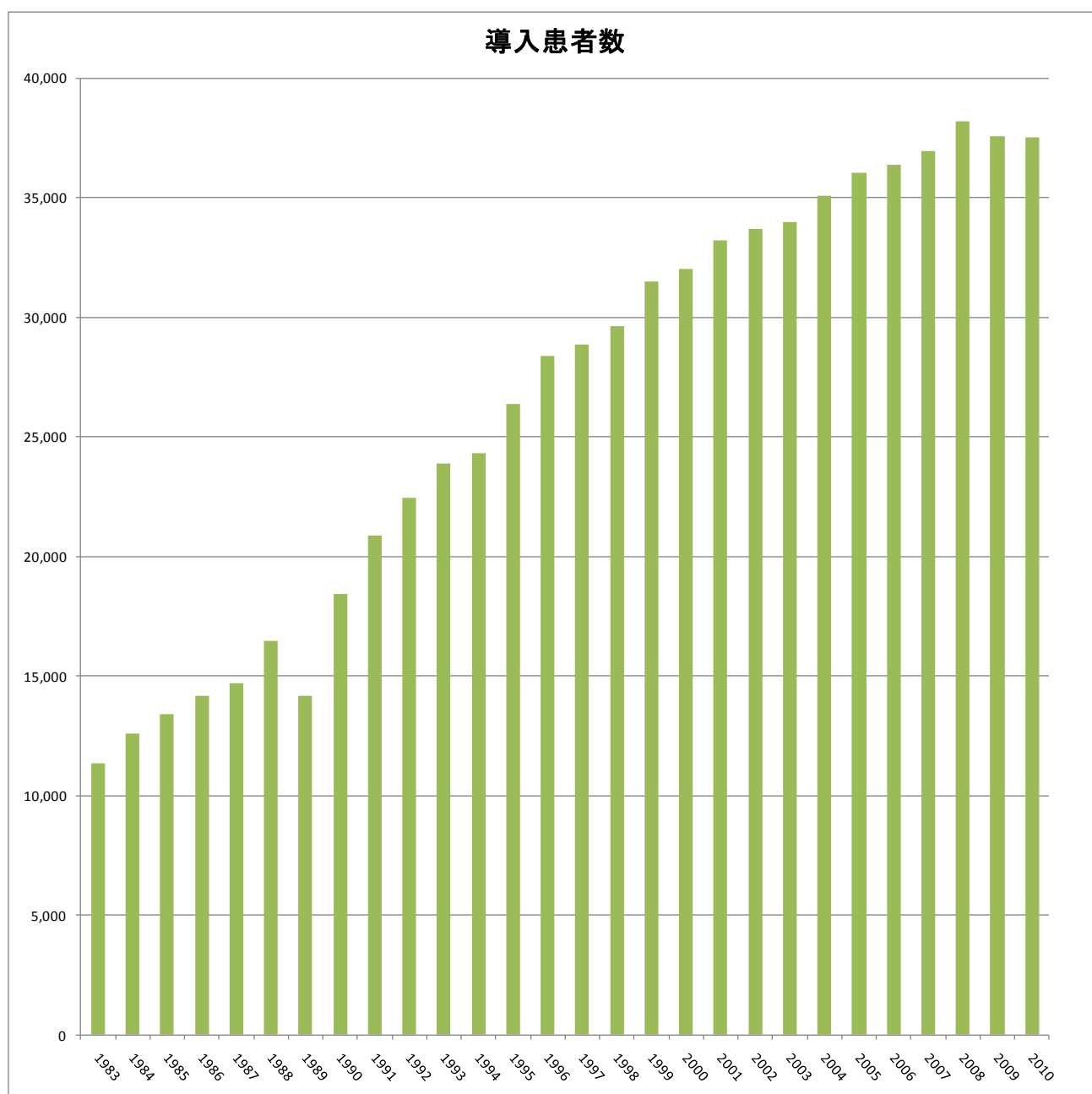
日本慢性腎臓病対策協議会 事務局

広報代行 (株)プラップジャパン

Tel:03-3486-2673 a-tamura@prap.co.jp

担当: 田村/比田井

図1 年別透析導入患者数の推移



年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
導入患者数	11,348	12,606	13,416	14,175	14,699	16,470	14,174	18,411	20,877	22,475	23,874	24,296	26,398	28,409

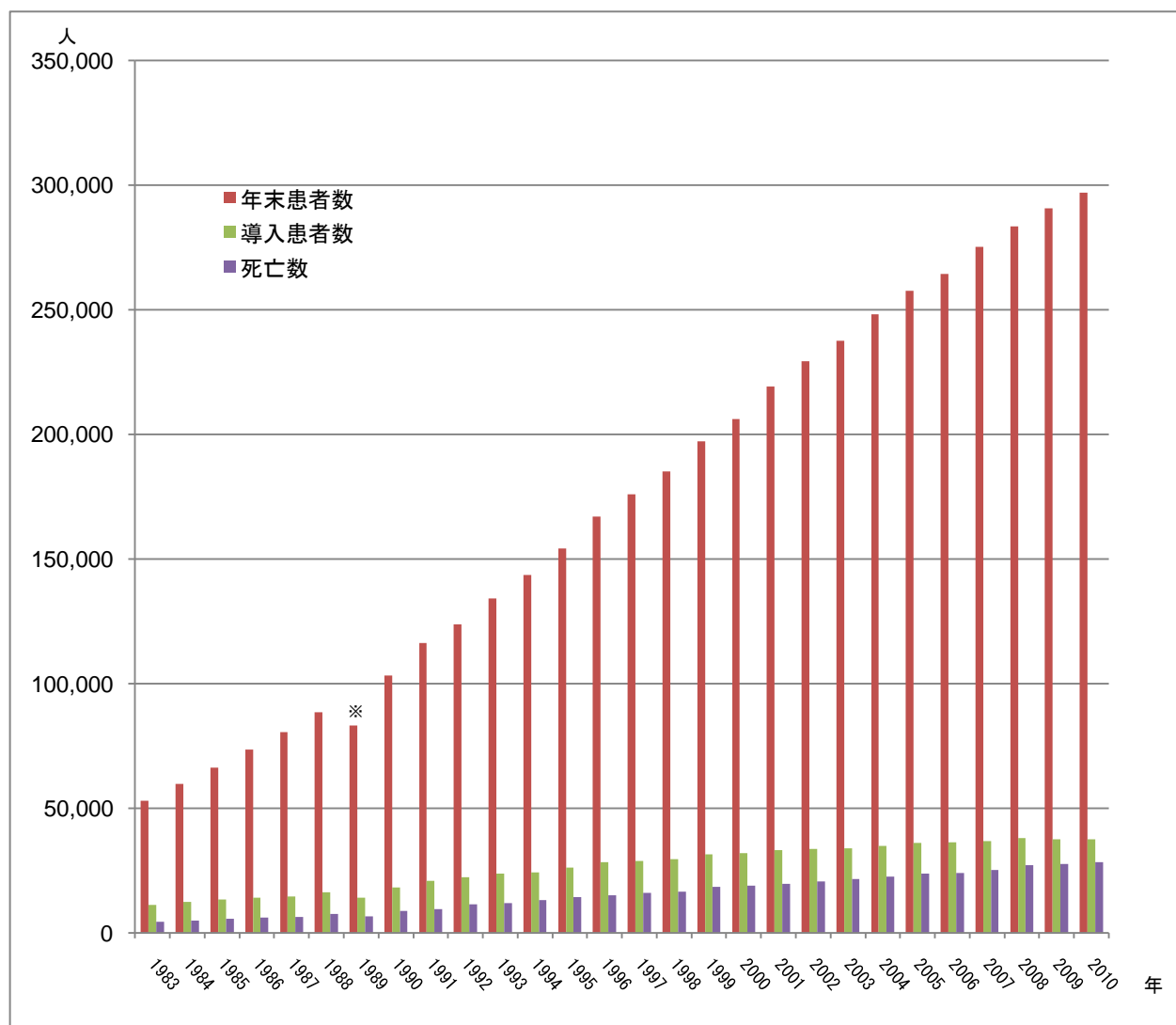
年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
導入患者数	28,870	29,641	31,483	32,018	33,243	33,710	33,966	35,084	36,063	36,373	36,934	38,180	37,566	37,532

施設調査等による集計

(解説)

2010年の導入患者は37,532人で前年度より34人減少した。今後の継続調査によって変わる要素はあるが、導入患者の増加一辺倒の傾向には変化が出てきたようである。※1989年の患者数の減少は、アンケート回収率が86%と例外的に低かったことによる見掛け上の影響である。

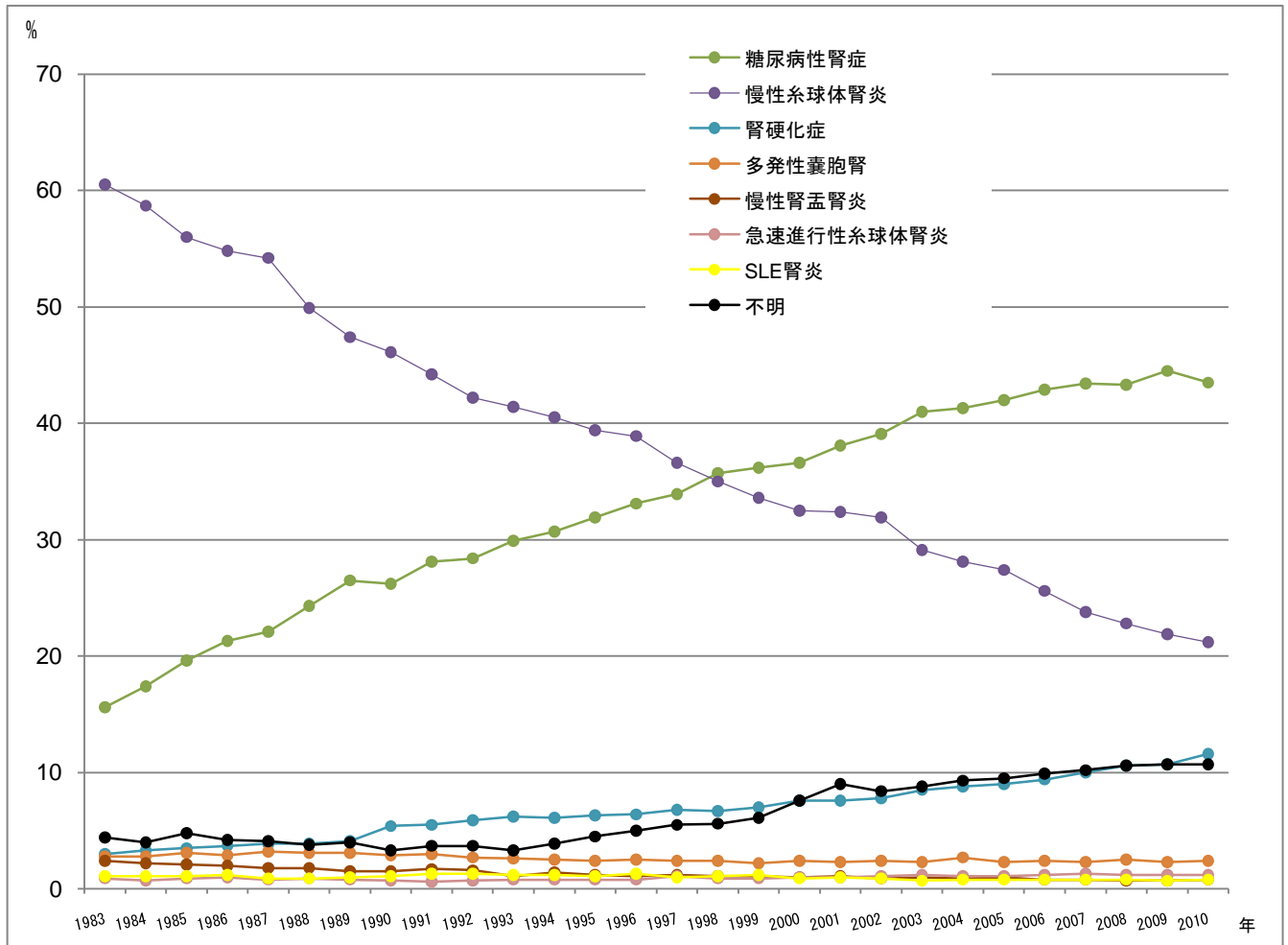
図2 患者数等、年別透析患者数、導入患者数、死亡患者数の推移



年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
年末患者数	53,017	59,811	66,310	73,537	80,553	88,534	83,221	103,296	116,303	123,926	134,298	143,709	154,413	167,192
導入患者数	11,348	12,606	13,416	14,175	14,699	16,470	14,174	18,411	20,877	22,475	23,874	24,296	26,398	28,409
死亡数	4,538	5,000	5,770	6,296	6,581	7,765	6,766	8,939	9,722	11,621	12,143	13,187	14,406	15,174

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
年末患者数	175,988	185,322	197,213	206,134	219,183	229,538	237,710	248,166	257,765	264,473	275,242	283,421	290,661	297,126
導入患者数	28,870	29,641	31,483	32,018	33,243	33,710	33,966	35,084	36,063	36,373	36,934	38,180	37,566	37,532
死亡数	16,102	16,687	18,524	18,938	19,850	20,614	21,672	22,715	23,983	24,034	25,253	27,266	27,646	28,423

図3 導入患者の現状
年別透析導入患者の主要原疾患の推移



年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
糖尿病性腎症	15.6	17.4	19.6	21.3	22.1	24.3	26.5	26.2	28.1	28.4	29.9	30.7	31.9	33.1
慢性糸球体腎炎	60.5	58.7	56	54.8	54.2	49.9	47.4	46.1	44.2	42.2	41.4	40.5	39.4	38.9
腎硬化症	3	3.3	3.5	3.7	3.9	3.9	4.1	5.4	5.5	5.9	6.2	6.1	6.3	6.4
多発性嚢胞腎	2.8	2.8	3.1	2.9	3.2	3.1	3.1	2.9	3	2.7	2.6	2.5	2.4	2.5
慢性腎盂腎炎	2.4	2.2	2.1	2	1.8	1.8	1.5	1.5	1.7	1.6	1.1	1.4	1.2	1.1
急速進行性糸球体腎炎	0.9	0.7	0.9	1	0.8	0.9	0.8	0.7	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8
SLE腎炎	1.1	1.1	1.1	1.2	0.9	0.9	1	1.1	1.3	1.3	1.2	1.2	1.1	1.3
不明	4.4	4	4.8	4.2	4.1	3.8	4	3.3	3.7	3.7	3.3	3.9	4.5	5

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
糖尿病性腎症	33.9	35.7	36.2	36.6	38.1	39.1	41	41.3	42	42.9	43.4	43.3	44.5	43.5
慢性糸球体腎炎	36.6	35	33.6	32.5	32.4	31.9	29.1	28.1	27.4	25.6	23.8	22.8	21.9	21.2
腎硬化症	6.8	6.7	7	7.6	7.6	7.8	8.5	8.8	9	9.4	10	10.6	10.7	11.6
多発性嚢胞腎	2.4	2.4	2.2	2.4	2.3	2.4	2.3	2.7	2.3	2.4	2.3	2.5	2.3	2.4
慢性腎盂腎炎	1.2	1.1	1.1	1	1.1	0.9	1	0.9	1	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8
急速進行性糸球体腎炎	1.1	0.9	0.9	1	1	1.1	1.2	1.1	1.1	1.2	1.3	1.2	1.2	1.2
SLE腎炎	1	1.1	1.2	0.9	1	0.9	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8
不明	5.5	5.6	6.1	7.6	9	8.4	8.8	9.3	9.5	9.9	10.2	10.6	10.7	10.7

患者調査による集計

(解説)

原疾患については、1998年に糖尿病性腎症と慢性糸球体腎炎との間で首位の座が入れ替わって以来、糖尿病性腎症は増加の一途であったが、この数年増加は鈍ってきている。今年では43.5%の患者が糖尿病性腎症を原疾患とした。第2位の慢性糸球体腎炎は年々減少し、2010年末では21.2%となり、統計調査開始から最低の割合となった。第3位は腎硬化症の11.6%であり、第4位は原疾患不明の10.7%であった。腎硬化症は2007年に10%を超えたが、透析導入患者の高齢化を反映して漸増している。その他には、多発性嚢胞腎、慢性腎盂腎炎、急速進行性糸球体腎炎、SLE腎炎の推移が示されているが、ほぼ例年通りの比率であった。

図 4

わが国の透析人口の推計

- ピーク：2017年末 319,677人

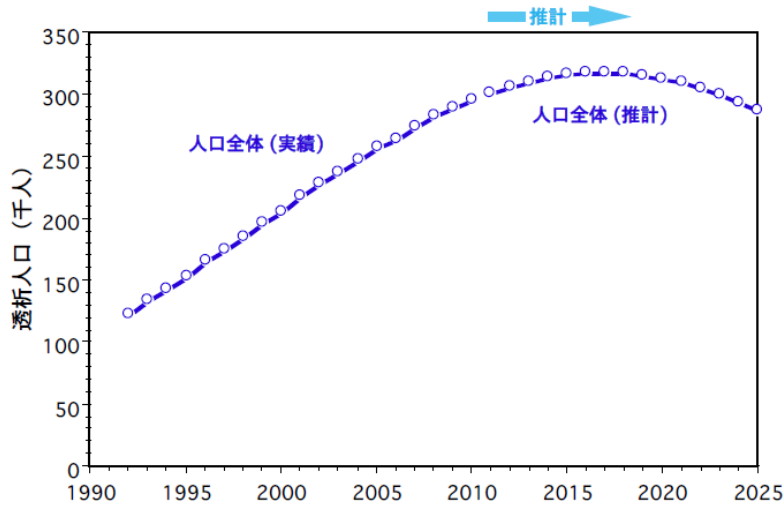


図 5

年間導入数推計：主要 3 原疾患

- 糸球体腎炎：1999年前後をピーク (約11,000人) として減少
- 糖尿病性腎症：2011年前後をピーク (約16,500人) として減少
- 腎硬化症：2025年時点で未だ増加傾向 (2025年：7,011人)。

